

## 7 地域リハビリテーションについて

資料 2 - 4

### (1) リハビリテーションを受けた経験

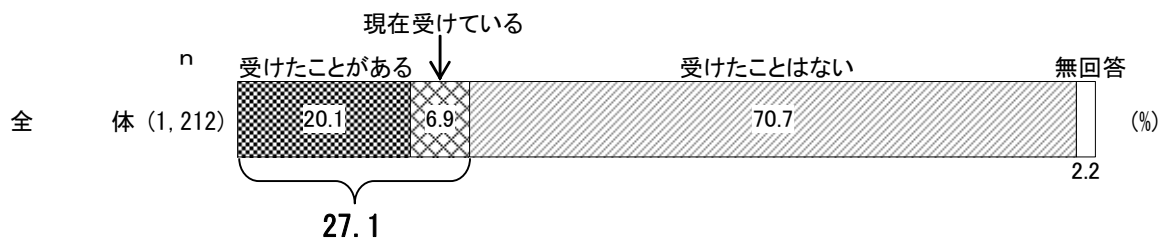
◇『経験がある（計）』が約3割

県では、リハビリテーション（運動やストレッチによるケガ・病気の回復、介護予防や健康増進の取組）が必要な方が、地域での介護予防から入院中・退院後の生活まで、途切れのない適切な施術を受けることが出来る、「地域リハビリテーション」の体制整備の推進を図っています。

今後の取組推進の参考とするため、県民の皆さまの利用状況や意識をお聞きいたします。

問26 あなた又はあなたの家族は、地域や病院、施設などで、理学療法士、作業療法士又は言語聴覚士などの専門職による、リハビリテーションを受けたことがある、又は現在受けていますか。（○は1つ）

<図表7-1>リハビリテーションを受けた経験



自身又は家族がリハビリテーションを受けた経験があるか聞いたところ、「受けたことがある」（20.1%）と「現在受けている」（6.9%）を合わせた『経験がある（計）』（27.1%）が約3割となっている。

一方、「受けたことはない」（70.7%）が7割で高くなっている。（図表7-1）

#### 【地域別】

地域別にみると、「受けたことはない」は“葛南地域”（77.8%）が約8割で高くなっている。

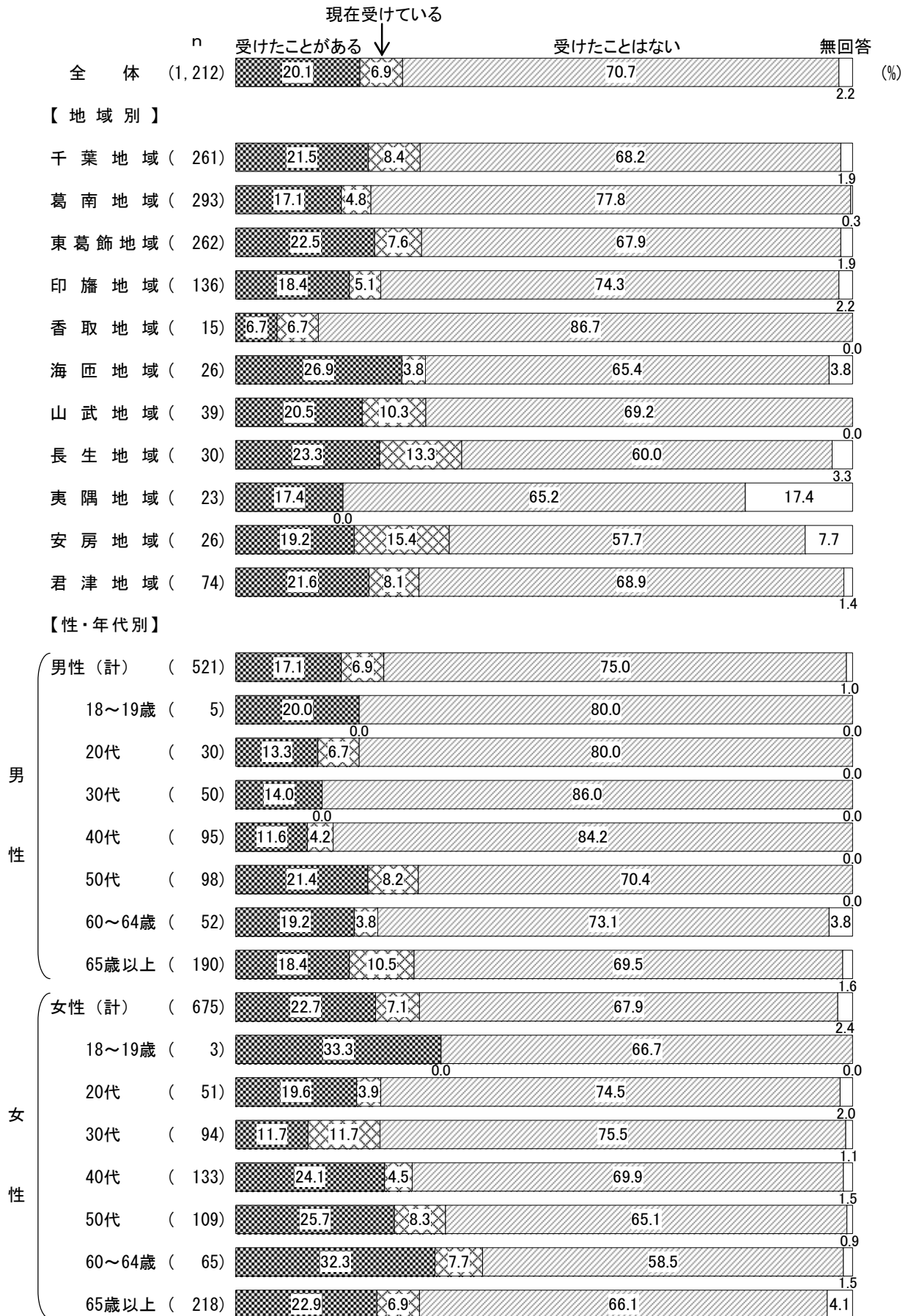
（図表7-2）

#### 【性・年代別】

性・年代別にみると、『経験がある（計）』は女性の60～64歳（40.0%）が4割で高くなっている。

一方、「受けたことはない」は男性の30代（86.0%）、40代（84.2%）が8割台半ばで高くなっている。（図表7-2）

<図表7-2>リハビリテーションを受けた経験／地域別、性・年代別



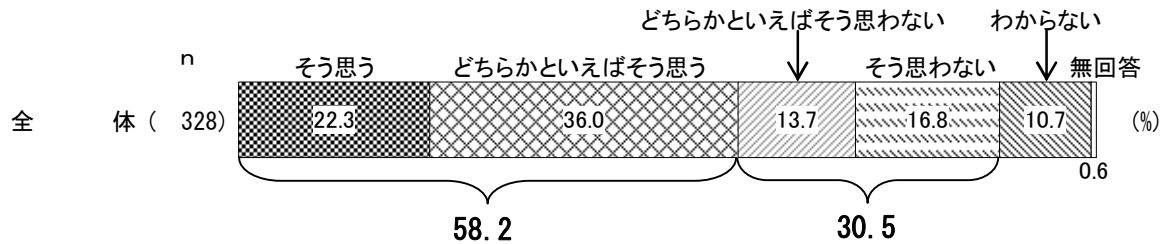
（1-1）適切なリハビリテーションが提供されたと思うか

◇『そう思う（計）』が約6割

（問26で「受けたことがある」、「現在受けている」とお答えの方に）

問26-1 あなた又はあなたの家族に対して、地域での介護予防から入院中・退院後の生活まで、それぞれの段階で途切れのない適切なリハビリテーションが提供された、又は提供されていると思いますか。（○は1つ）

＜図表7-3＞適切なリハビリテーションが提供されたと思うか



自身又は家族がリハビリテーションを「受けたことがある」または「現在受けている」と回答した328人を対象に、地域での介護予防から入院中・退院後の生活まで、それぞれの段階で途切れのない適切なリハビリテーションが提供された、又は提供されていると思うか聞いたところ、「そう思う」(22.3%)と「どちらかといえばそう思う」(36.0%)を合わせた『そう思う(計)』(58.2%)が約6割と高くなっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」(13.7%)と「そう思わない」(16.8%)を合わせた『そう思わない(計)』(30.5%)が3割となっている。(図表7-3)

【地域別】

※サンプル数が少ない（有意差がない）ため、【地域別】における属性の分析は触れていない。  
（10ページ「報告書の見方（5）」を参照）

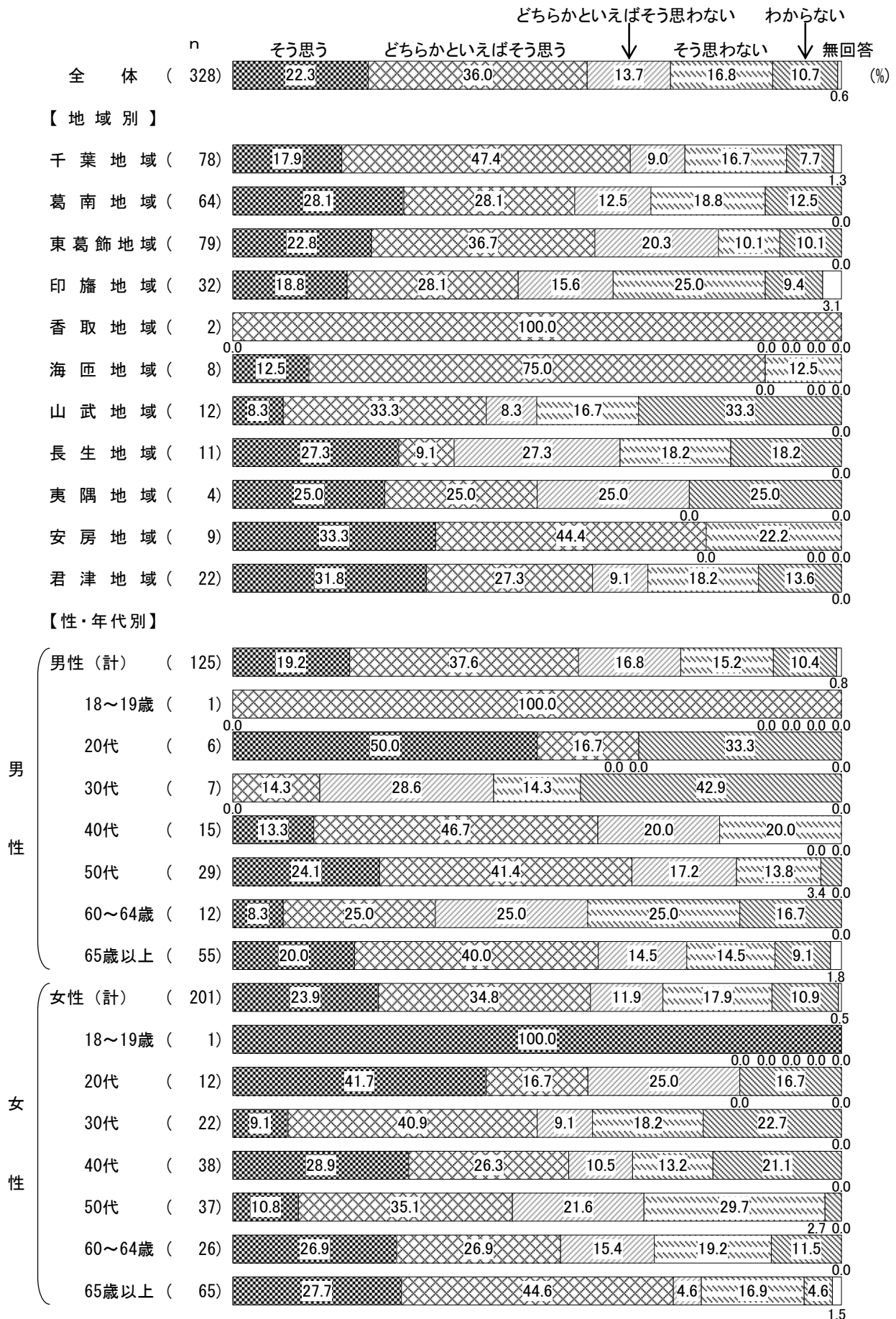
【性・年代別】

性・年代別にみると、『そう思う(計)』は女性の65歳以上(72.3%)が7割を超えて高くなっている。

一方、『そう思わない(計)』は女性の50代(51.4%)が5割を超えて高くなっている。

(図表7-4)

<図表7-4>適切なリハビリテーションが提供されたと思うか／地域別、性・年代別

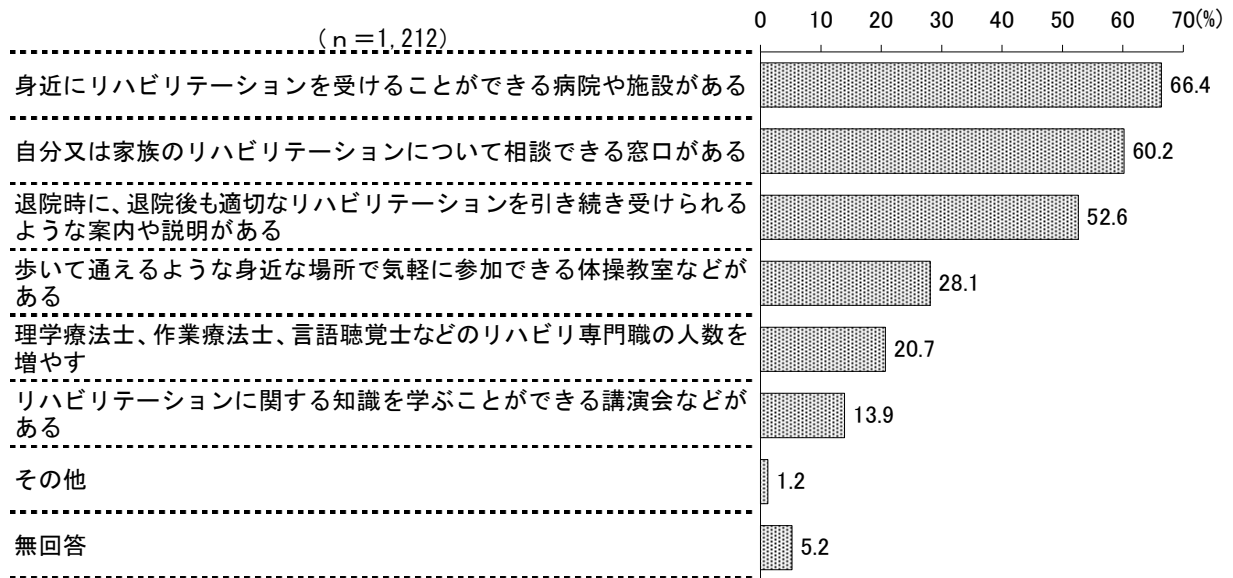


（2）適切なリハビリテーションが提供されるために重要だと思うこと

◇「身近にリハビリテーションを受けることができる病院や施設がある」が6割台半ば

問27 あなたは、適切なリハビリテーションが提供されるためには、どのようなことが重要だと思いますか。（○はいくつでも）

＜図表7-5＞適切なリハビリテーションが提供されるために重要だと思うこと（複数回答）



適切なリハビリテーションが提供されるためには、どのようなことが重要だと思うか聞いたところ、「身近にリハビリテーションを受けることができる病院や施設がある」（66.4%）が6割台半ばで最も高く、以下、「自分又は家族のリハビリテーションについて相談できる窓口がある」（60.2%）、「退院時に、退院後も適切なリハビリテーションを引き続き受けられるような案内や説明がある」（52.6%）が続く。（図表7-5）

【地域別】

地域別にみると、「身近にリハビリテーションを受けることができる病院や施設がある」は“葛南地域”（73.7%）が7割台半ば、「自分又は家族のリハビリテーションについて相談できる窓口がある」は“香取地域”（86.7%）が8割台半ばで高くなっている。（図表7-6）

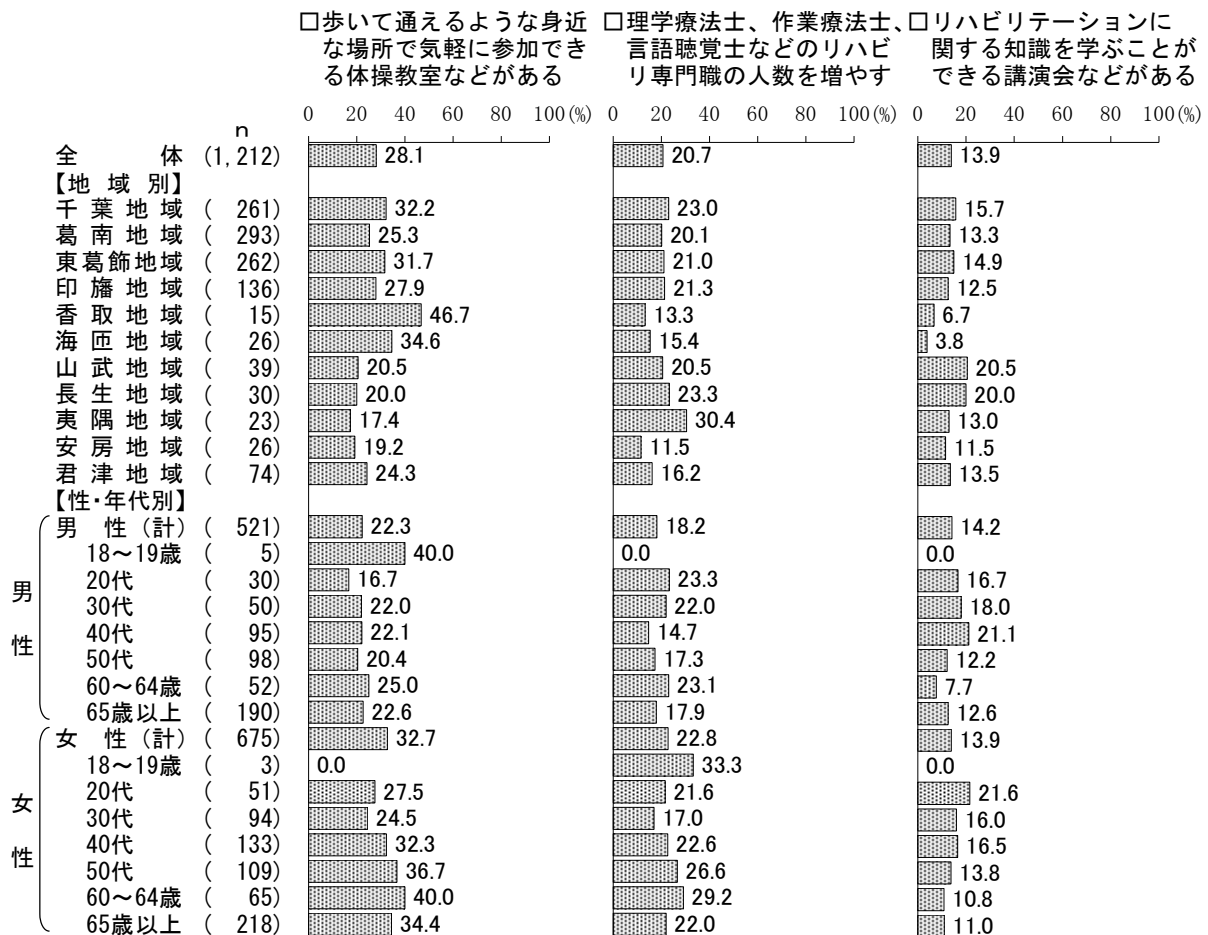
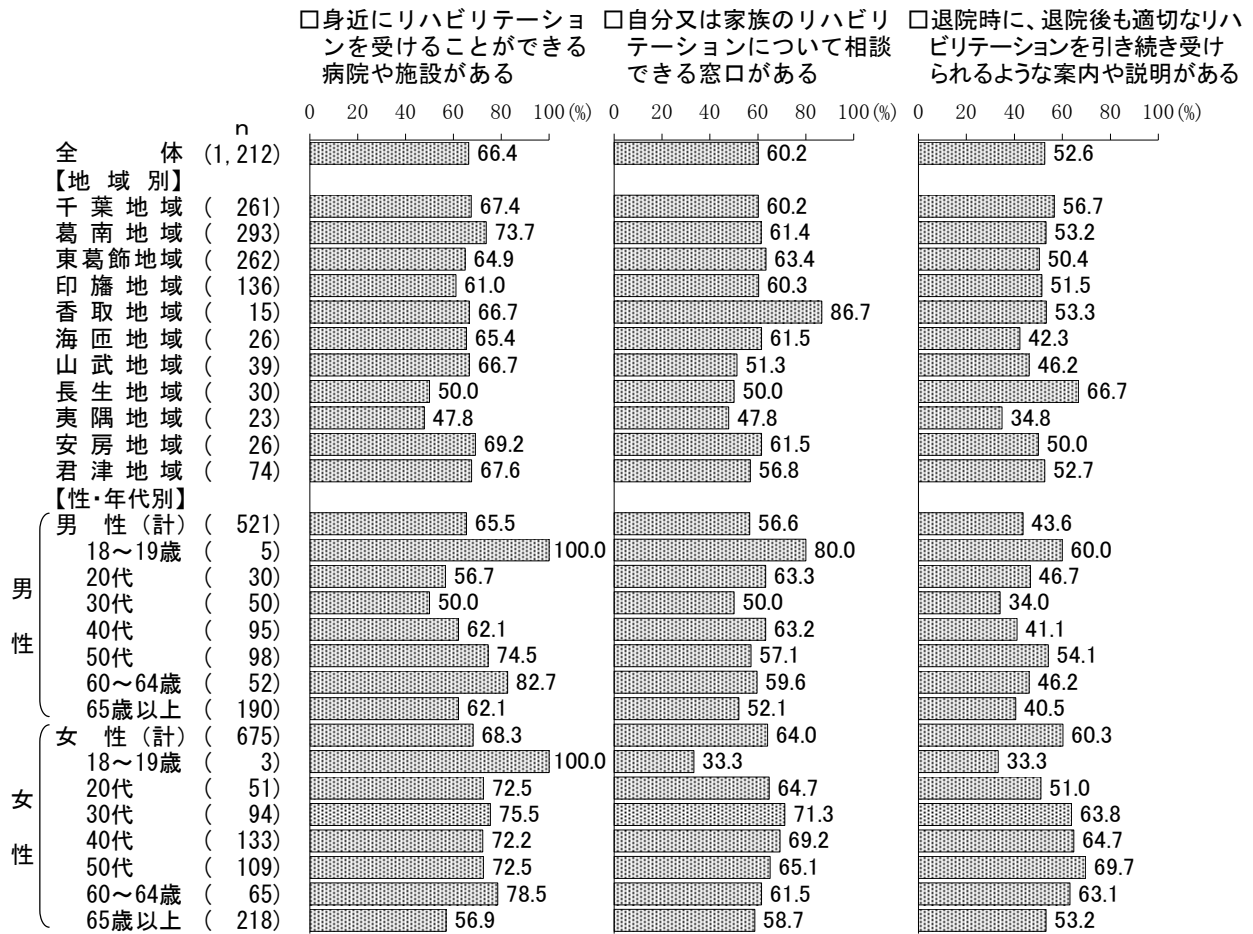
【性・年代別】

性・年代別にみると、「身近にリハビリテーションを受けることができる病院や施設がある」は男性の60～64歳（82.7%）が8割を超え、女性の60～64歳（78.5%）が約8割で高くなっている。

「自分又は家族のリハビリテーションについて相談できる窓口がある」は女性の30代（71.3%）が7割を超え、女性の40代（69.2%）が約7割で高くなっている。（図表7-6）

<図表7-6>適切なリハビリテーションが提供されるために重要だと思うこと（複数回答）

／地域別、性・年代別（上位6項目）

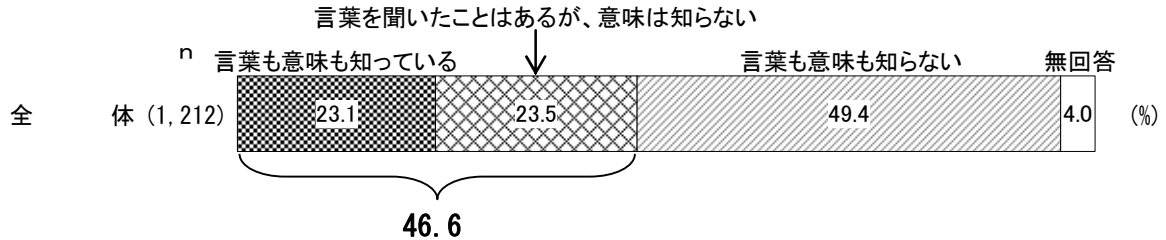


### （3）「地域リハビリテーション」という言葉の認知度

◇『知っている（計）』が4割台半ば

問28 あなたは、「地域リハビリテーション」（※別紙「地域リハビリテーションとは？」参照）という言葉を知っていますか。（○は1つ）

＜図表7-7＞「地域リハビリテーション」という言葉の認知度



「地域リハビリテーション」という言葉を知っているか聞いたところ、「言葉も意味も知っている」（23.1%）と「言葉を聞いたことはあるが、意味は知らない」（23.5%）を合わせた『知っている（計）』（46.6%）が4割台半ばとなっている。

一方、「言葉も意味も知らない」（49.4%）は約5割となっている。（図表7-7）

#### 【地域別】

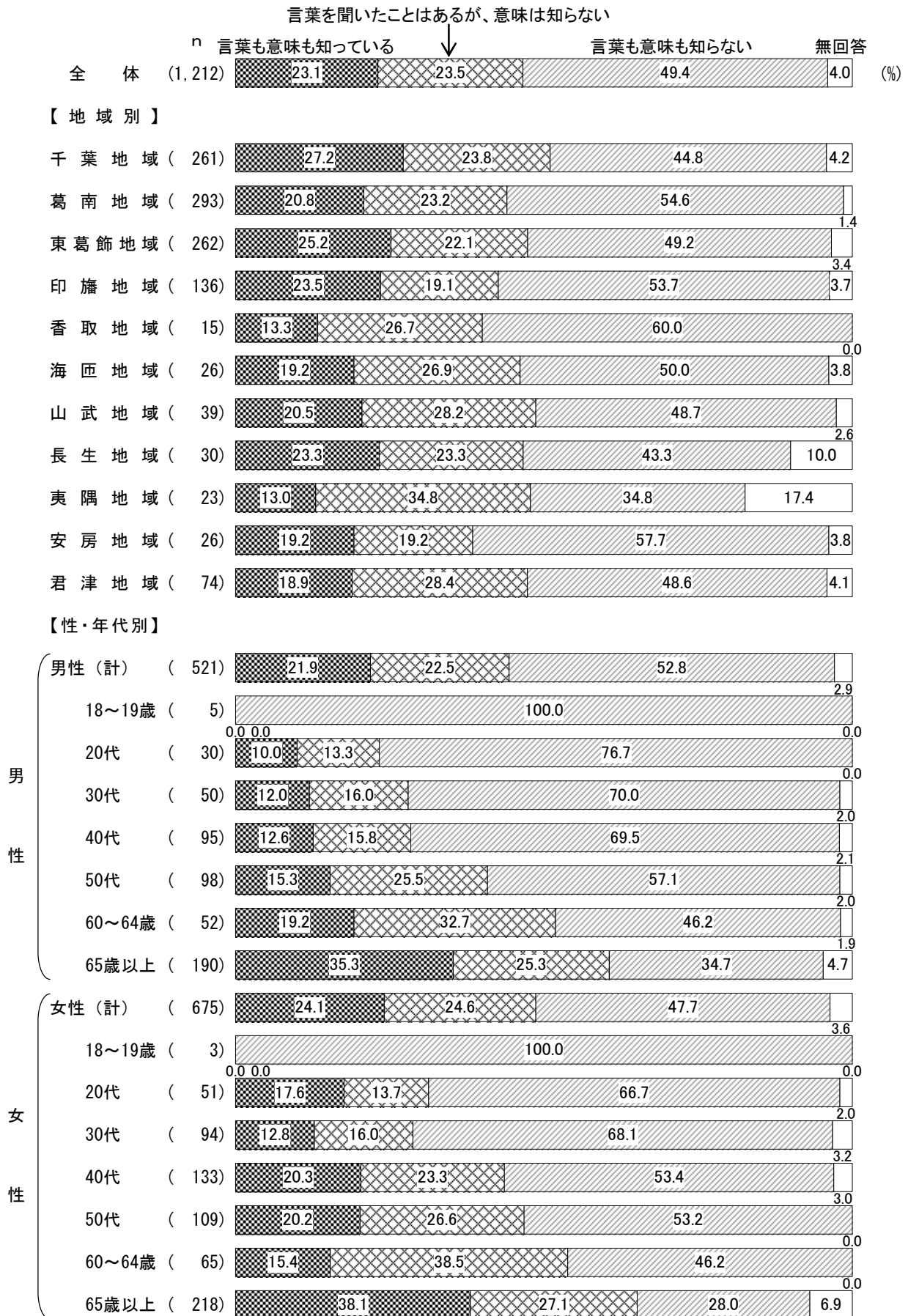
地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表7-8）

#### 【性・年代別】

性・年代別にみると、『知っている（計）』は女性の65歳以上（65.1%）が6割台半ば、男性の65歳以上（60.5%）が6割で高くなっている。

一方、「言葉も意味も知らない」は男性の20代（76.7%）が7割台半ば、男性の30代（70.0%）が7割、男性の40代（69.5%）と女性の30代（68.1%）が約7割、女性の20代（66.7%）が6割台半ばで高くなっている。（図表7-8）

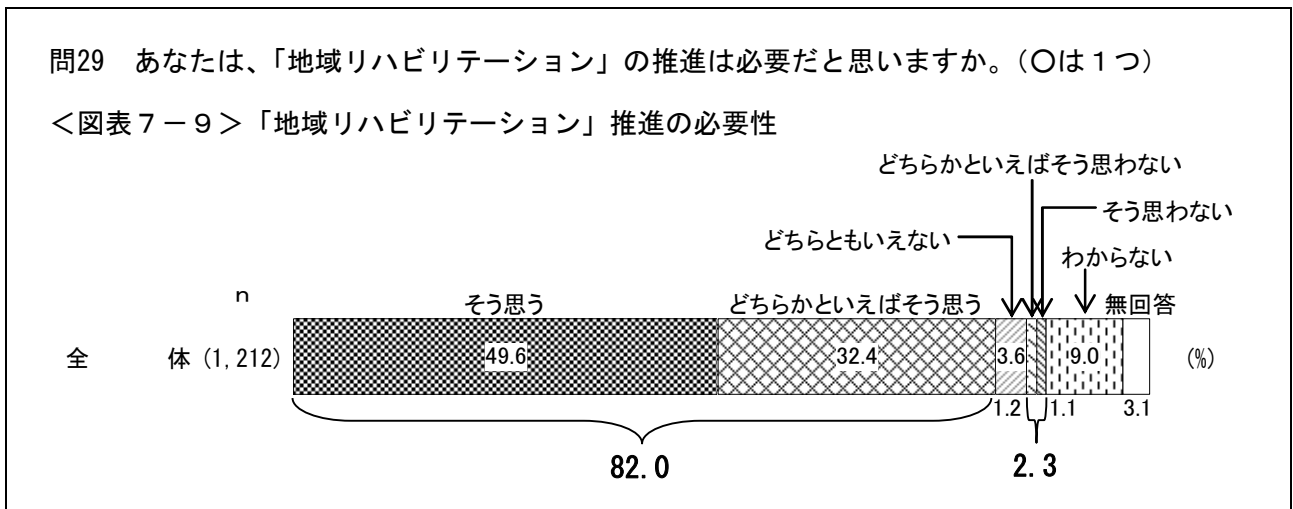
<図表7-8> 「地域リハビリテーション」という言葉の認知度／地域別、性・年代別





（４）「地域リハビリテーション」推進の必要性

◇『そう思う（計）』が8割を超える



「地域リハビリテーション」の推進は必要だと思うか聞いたところ、「そう思う」（49.6％）と「どちらかといえばそう思う」（32.4％）を合わせた『そう思う（計）』（82.0％）が8割を超えて高くなっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」（1.2％）と「そう思わない」（1.1％）を合わせた『そう思わない（計）』（2.3％）はわずかである。（図表7-9）

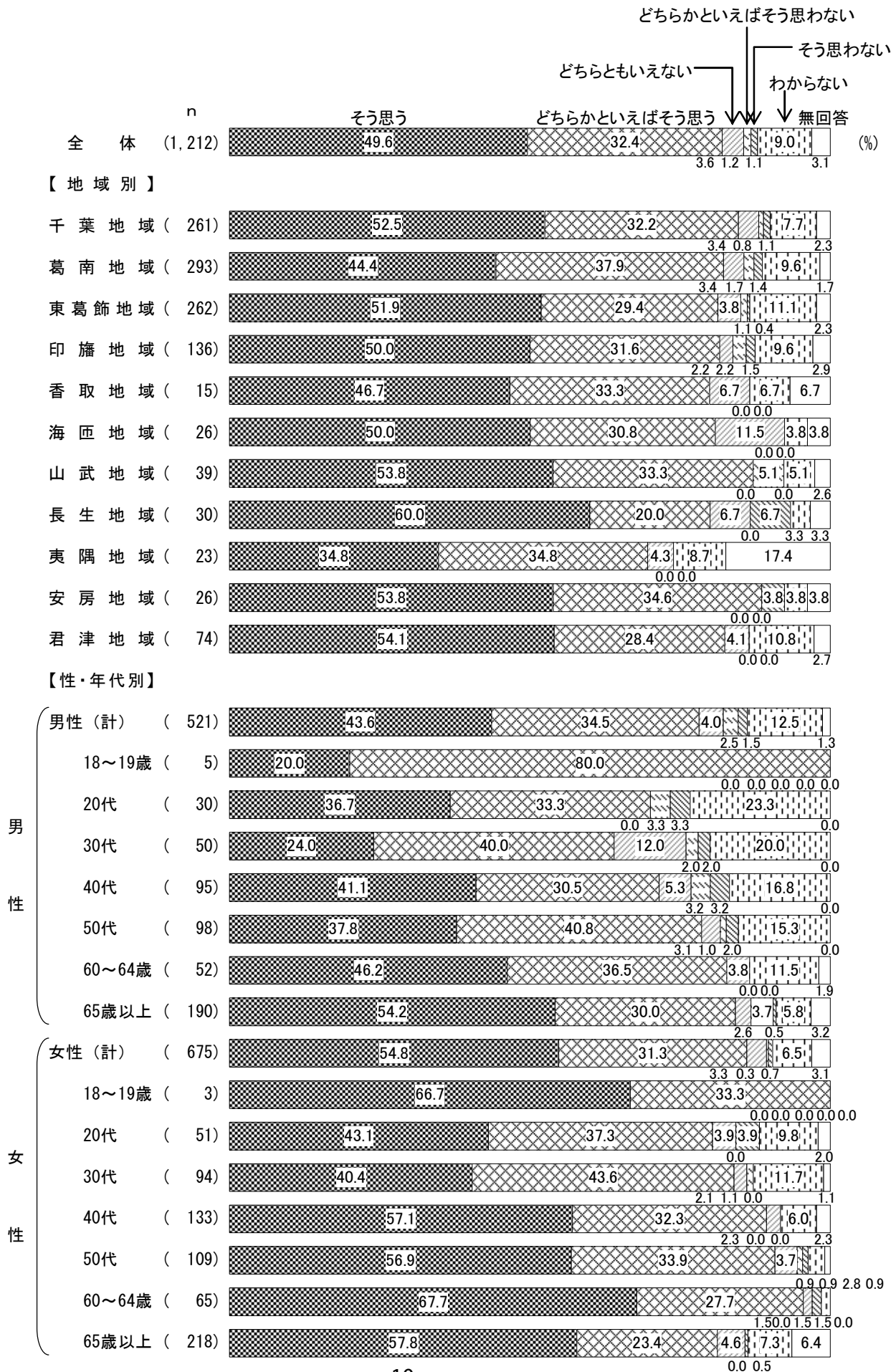
【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表7-10）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『そう思う（計）』は女性の60～64歳（95.4％）が9割台半ば、女性の50代（90.8％）が9割、女性の40代（89.5％）が約9割で高くなっている。（図表7-10）

<図表7-10> 「地域リハビリテーション」推進の必要性／地域別、性・年代別



このほかに、「地域リハビリテーション」やここまでの質問（問26～問29）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、90人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「地域リハビリテーション」の自由回答（抜粋）

- 理学療法士です。今は地域住民同士の交流や連携などが希薄ですので、そういった部分からだと思います。昭和の古きよき時代のように、お互いがお互いを知っているような関係づくりが地域に必要なだと思います。（男性、40代、葛南地域）
- 良い病院に人が集中しすぎてリハビリをしたくてもできず、遠い所まで行かなくては良いリハビリを受けることさえもできませんでした。今は車があるので大丈夫ですが、もう少し年齢がいきましたら頼れる良い病院がないことに気がつきました。（女性、50代、東葛飾地域）
- 次に進む時に気軽に相談ができることは良いこと。誰でもすべてがわかるわけではないので、利用者に声をかけてもらいたい。わからない事だらけなのだから。（女性、50代、千葉地域）
- 必要な方の自主的参加は難しいと考える。民生委員や行政が参加できるようなサポートがまず必要なのでは。（男性、65歳以上、山武地域）
- この高齢化時代では、高齢者といえども必要性を感じたら、自分から積極的にスポーツクラブに行くとか動くべきである。行政からしてもらおうとばかり考えるべきではない。（女性、65歳以上、千葉地域）
- 病院→施設→家庭と切れ目のないリハビリテーションが受けられる連携システムがほしい。高齢者、障害者が一つの窓口で相談に行けば、必要な支援が受けられる仕組みがほしい。（女性、65歳以上、東葛飾地域）
- 地域リハビリテーションを利用する人には十分に利用してもらいたいが、その周りの人の考え方も大事だと思う。障害を持っている人や高齢者への理解をする機会が一般の人にもあれば、さらに住みやすくなるのではないかと思う。（女性、20代、葛南地域）
- 自動車がないと移動できない地域などでも地域リハビリテーションを進めるために、市や県が病院への移動手段として送迎を行っては頂けないでしょうか。（男性、30代、君津地域）
- 今は、自分に必要ではないものですが、いざ必要となった時に気軽に相談できる窓口があると心強いと思いました。（女性、30代、東葛飾地域）
- 子供達が正しい認識を持つことが両親・祖父母への促しや理解につながり、子供達が大きくなった時に上手く活用できるのでは。（男性、30代、東葛飾地域）